2026年10月29日
訂正版(P10,22)

2026年3月期
第3四半期決算
プレゼンテーション資料

2026年2月2日

大阪ガス株式会社

証券コード 9532

Copyright ©OSAKA GAS CO., LTD. All Rights Reserved.

目次

Ⅰ. 26.3期 第3四半期決算と見通し修正の概要 …… 2－8

Ⅱ. 数値増減

1． 26.3期 第3四半期決算の対前年比較 …… 9－14

2． 26.3期 見通しの対前回見通し比較 …… 15－20

3． 26.3期 見通しの対前年比較 …… 21－26

Ⅲ. 補足情報 …… 27－31

インターネットを通じて定期的に経営情報を発信しています：下記のURLで、決算短信、統合報告書、ファクトブック、説明会資料等を閲覧・ダウンロードすることが可能です。
https://www.daigasgroup.com/ir/

「見通し」に関する注意事項：このプレゼンテーションには、将来の業績に関する見通し、計画、戦略等が含まれており、これらは現在入手可能な情報から得られた当社グループの判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績の見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、日本経済の動向、急激な為替相場・原油価格の変動並びに天候の異変等があります。

2025年5月8日公表の自己株式の取得による影響を考慮しています。(ただし、26.3期今回見通しの「DOE」、「配当性向」、「一株当たり当期純利益」及び「一株当たり純資産」には、2026年1月1日以降の自己株式取得分の影響は含んでいません。)

国内ガス販売量に関する注記：全て、基準熱量を45MJ/m^3として、表記しています。名張近鉄ガス・新宮ガスは12月決算です。

Ⅰ. 26.3期 第3四半期決算と見通し修正の概要

Copyright © OSAKA GAS CO., LTD. All Rights Reserved.

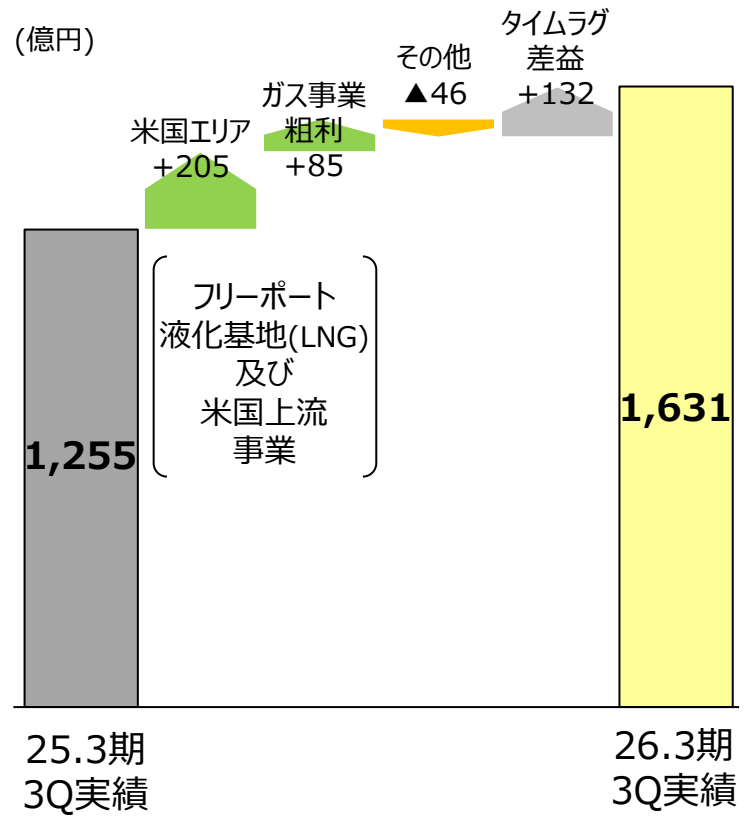
26.3期 第3四半期決算のポイント

- ✓ 売上高は、概ね前年並み。
- ✓ 経常利益は、海外エネルギー事業におけるフリーポート液化基地(LNG)や米国上流事業等の好調、国内エネルギー事業におけるタイムラグ差益の拡大などにより、増益となった。
- ✓ 親会社株主に帰属する当期純利益は、関係会社売却による特別利益等もあり増益となった。

(億円)	26.3期 3Q実績	25.3期 3Q実績	前年差
売上高	**14,388**	14,441	**▲53**
経常利益	**1,631**	1,255	**+376**
タイムラグ差損益を除く	**1,444**	1,200	**+243**
親会社株主に帰属する当期純利益	**1,403**	908	**+495**
EBITDA*1	**2,593**	2,140	**+452**

*1 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 (のれん償却費含む) + 持分法投資損益

経常利益前年差(+376億円)の概要



26.3期 第3四半期決算の対前年比較(経常利益)

(主な増減要素を記載)

経常利益 前年差
+376億円
1,255→1,631

- 原油価格 ▲10.7$/bbl (83.7→72.9)
- 為替レート ▲3.9円/$ (152.6→148.7)

国内エネルギー
+250億円*1
380→631

タイムラグ +132(54→187)
ガス+96(46→142) 電力+36(7→44)
ガス事業粗利*3 +85(1,657→1,742)
＋ JLCと比較した当社長期契約LNGの競争力向上
電力*3 ▲37(217→179)
－ 市況影響(石炭価格等)による販売価格低下
その他 +70(-1,548→-1,478)

海外エネルギー
+162億円*1,2
550→712

米国エリア +205(448→653)
＋ フリーポート液化基地(LNG)の増益
＋ 上流事業の増益
豪州エリア ▲29(135→105)
－ 上流事業の減益
その他 ▲13(-33→-46)
－ インド都市ガス事業への出資影響*4

ライフ&ビジネスソリューション
+5億円*1
216→221

都市開発事業 +17(118→136)
情報事業 +16(23→40)
材料事業 ▲28(69→40)
その他 +0(3→4)

その他▲42億円
108→65

セグメント調整額 ▲12(40→28)
営業外損益*5 ▲30(67→37)

*1 セグメント利益
*2 デリバティブ時価評価影響 ▲5(2→－3)を含む
*3 タイムラグ差損益を除く
*4 インド都市ガス事業にマイナー出資を行った日系コンソーシアムの連結化に伴うもの(損益取り込みは25.3期2Qより開始)
*5 持分法投資損益を除く

26.3期 見通し修正について

- ✓ 売上高、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益は、前回見通し(2025年10月30日公表)を据え置く。
- ✓ 直近の市況および業績動向を勘案し、2026年1月以降の原油価格、為替レートの前提を変更し、通期見通しの国内エネルギーセグメント利益の内訳を、前回見通しから修正する。

経常利益
前回差
±0億円
1,860→1,860

国内エネルギー
±0億円[*1]
755→755

(主な増減要素を記載)

ガス事業粗利[*3] **▲30**(2,529→2,499)
- − JLCと比較した当社長期契約LNGの競争力の縮小

電力[*3] **+30**(200→230)
- ＋ 電力市場取引による利益増

海外エネルギー
±0億円[*1,2]
740→740

ライフ&ビジネス ソリューション
±0億円[*1]
340→340

その他 ±0億円
25→25

内訳の修正なし

- ● 原油価格　▲0.8＄/bbl (71.8→71.0)
  26年1月以降の油価前提　**▲5.0＄/bbl (70.0→65.0)**
- ● 為替レート　+2.3円/＄ (148.0→150.3)
  26年1月以降の為替前提　**+5.0円/＄ (150.0→155.0)**

*1 セグメント利益
*2 デリバティブ時価評価影響を含む
*3 タイムラグ差損益を除く

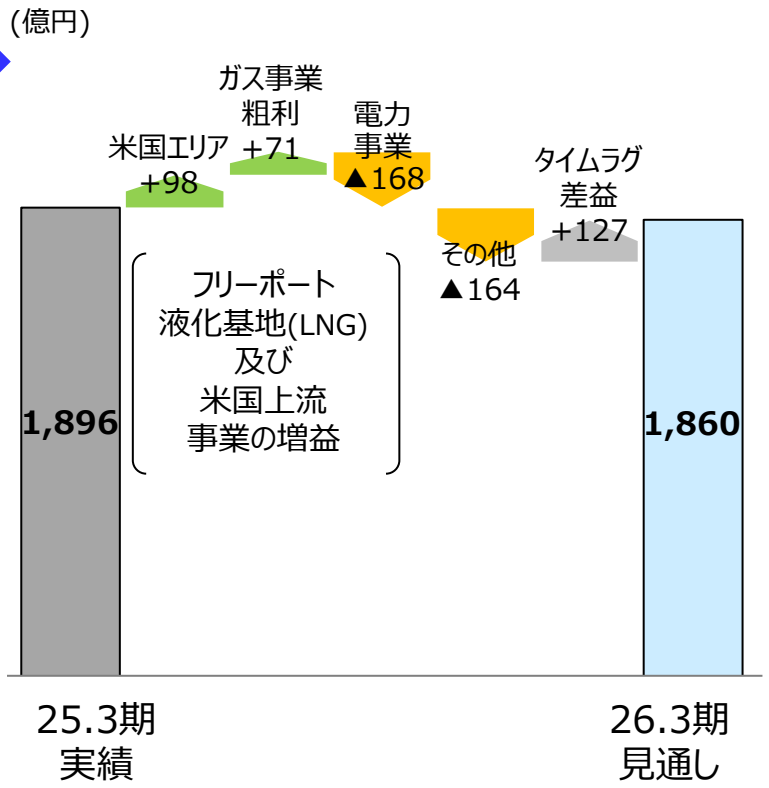
26.3期 見通しの対前年比較のポイント

- ✓ 売上高は、原料費調整制度に基づくガス販売単価の低下等により、25.3期に比べて減収となる見通し。
- ✓ 経常利益は、電力事業での固定費の増加等により、25.3期に比べて減益となる見通し。
- ✓ 一方で親会社株主に帰属する当期純利益が25.3期に比べて増益となっているのは、主に米国再エネ事業における利益の計上先変更による。

(億円)	26.3期 通期見通し	25.3期 通期実績	前年差
売上高	**20,500**	20,690	**▲190**
経常利益	**1,860**	1,896	**▲36**
タイムラグ差損益を除く	**1,690**	1,853	**▲163**
親会社株主に帰属する当期純利益	**1,420**	1,344	**+75**
EBITDA	**3,210**	3,089	**+120**
ROIC[*1] (%)	**5.7%**	5.4%	**+0.3%**
ROE (%)	**8.4%**	8.2%	**+0.1%**
自己資本比率[*2] (%)	**55.0%**	55.5%	**▲0.5%**
D/E比率[*2] (倍)	**0.52**	0.50	**+0.02**
配当額 (円/株)	**120.0**	95.0	**+25.0**

*1 ROIC = NOPAT ÷ 投下資本(期首期末平均)
NOPAT = 経常利益 + 支払利息 - 受取利息 - 法人税等
投下資本 = 自己資本 + 有利子負債残高(当社にリスクのないリース負債除く)
*2 発行済ハイブリッド社債の資本性50%を調整

経常利益前年差(▲36億円)の概要



26.3期 見通しの対前年比較(経常利益)

(主な増減要素を記載)

経常利益
前年差
▲36億円
1,896→1,860

- 原油価格 ▲11.4$/bbl (82.4→71.0)
- 為替レート ▲2.3円/$ (152.6→150.3)

*1 セグメント利益
*2 デリバティブ時価評価影響を含む (25.3期は13億円)
*3 タイムラグ差損益を除く
*4 持分法投資損益を除く

国内エネルギー
▲20億円*1
775→755

タイムラグ +127(42→170)
ガス+110(29→140) 電力+17(12→30)
ガス事業粗利*3 +71(2,427→2,499)
＋ JLCと比較した当社長期契約LNGの競争力向上
電力*3 ▲168(398→230)
－ 固定費の増
－ 市況影響(石炭価格等)による販売価格低下
その他 ▲50(-2,093→-2,144)
－ 費用増

海外エネルギー
+20億円*1,2
719→740

米国エリア+98(594→693)
＋ フリーポート液化基地(LNG)の前年度トラブルの反動
豪州エリア▲44(176→131)
－ 上流事業の減益
その他 ▲32(-52→-84)
－ インド都市ガス事業の費用増

ライフ&ビジネスソリューション
+52億円*1
287→340

都市開発事業 +47(142→189)
情報事業 +14(63→77)
材料事業 ▲8(75 →66)
その他 ▲1(7→5)

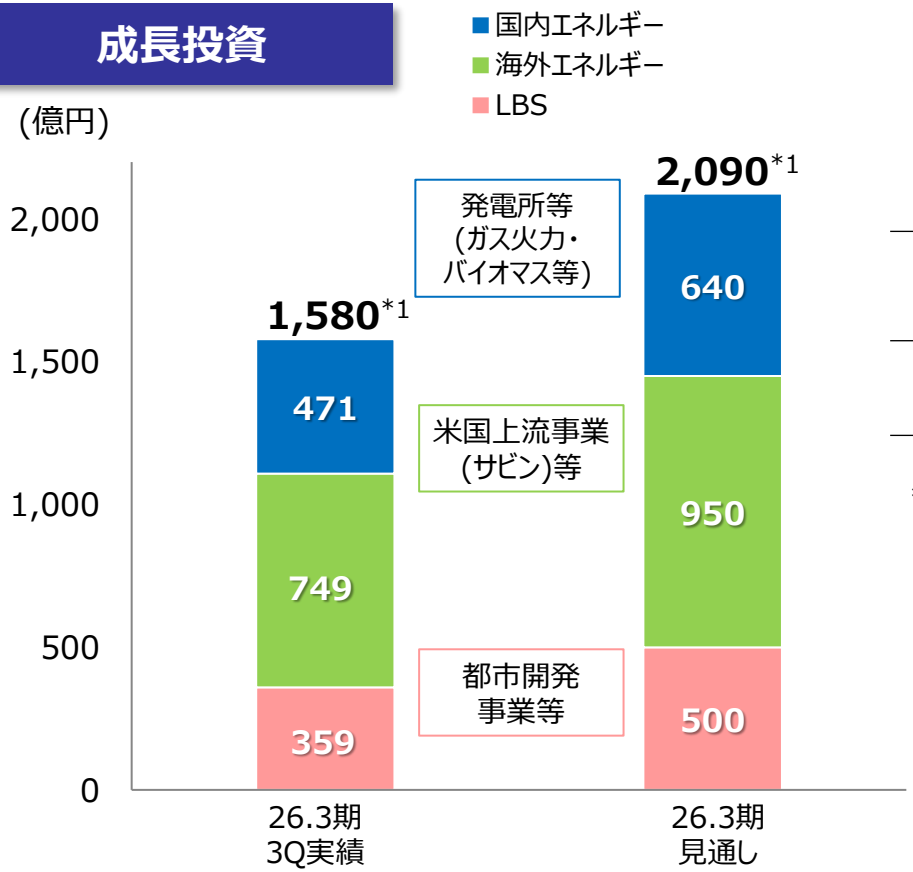
その他 ▲88億円
113→25

セグメント調整額 ▲26(31→5)
営業外損益*4 ▲62(82→20)

成長投資の実績と見通し

- ✓ 26.3期 第3四半期の成長投資額の実績は、1,580億円となった。
- ✓ 財務健全性指標は中期経営計画2026で示した「自己資本比率45%以上、D/E比率0.8以下」を確保している。
- ✓ 今後も成長投資を継続し、キャッシュ・フローと収益性・効率性を向上させ、持続的な成長と中長期的な企業価値向上を実現する。

成長投資



*1 成長投資額には設備投資案件以外に出資・融資案件を含むため、設備投資額とは異なる

財務健全性指標

	25.3期 期末実績	26.3期 3Q末実績	26.3期 期末見通し
自己資本比率*2	55.5% (52.8%)	54.7% (52.1%)	55.0% (52.3%)
D/E比率*2	0.50 (0.58)	0.53 (0.61)	0.52 (0.60)

*2 発行済ハイブリッド社債 1,750億円の資本性50%を調整。
括弧内の数値は調整前。

Ⅱ. 数値増減

Ⅱ-1. 26.3期 第3四半期決算の対前年比較

Copyright © OSAKA GAS CO., LTD. All Rights Reserved.

26.3期 第3四半期の対前年比較 - ①売上高、利益等

億円	A. 26.3期 3Q実績	B. 25.3期 3Q実績	A-B	(A-B)/B	備考
売上高	14,388	14,441	-53	-0.4%	
営業利益	1,337	995	+342	+34.4%	米国事業の好調 等
経常利益	1,631	1,255	+376	+30.0%	米国事業の好調 等
タイムラグ差損益を除く	1,444	1,200	+243	+20.3%	米国事業の好調 等
(参考) タイムラグ差損益*1	187	54	+132	+244.5%	
(個別)ガス事業	142	46	+96	+206.1%	
(個別)電力事業	44	7	+36	+480.4%	
親会社株主に帰属する当期純利益	1,403	908	+495	+54.5%	関係会社売却による特別利益 等
タイムラグ差損益を除く	1,269	869	+399	+45.9%	関係会社売却による特別利益 等
一株あたり当期純利益(円)	357.97	224.45	+133.52	+59.5%	
EBITDA*2	2,593	2,140	+452	+21.1%	
NOPAT*3	1,198	938	+260	+27.7%	

*1 国内エネルギーの内数

*2 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 (のれん償却費含む) + 持分法投資損益

*3 NOPAT = 経常利益 + 支払利息 - 受取利息 - 法人税等

	A. 26.3期 3Q実績	B. 25.3期 3Q実績	A-B	備考
原油価格(JCC)($/bbl)	72.9	83.7	-10.7	26.3期3Q実績は12月速報値までの平均
為替(円/$)	148.7	152.6	-3.9	

※2026年10月29日に数値を一部訂正。訂正箇所は下線を付して表示。

26.3期 第3四半期の対前年比較 - ②資産等

億円	A. 26.3期 3Q末実績	B. 25.3期 期末実績	A-B	備考
総資産	33,267	32,005	+1,261	
自己資本	17,325	16,887	+437	
一株当たり純資産(円)	4,477.2	4,254.1	+223.0	
株主資本	13,575	13,020	+554	
有利子負債	10,507	9,724	+783	
ハイブリッド社債	1,750	1,750	±0	
自己資本比率	52.1%	52.8%	-0.7%	
ハイブリッド社債考慮後*1	54.7%	55.5%	-0.8%	
D/E比率	0.61	0.58	+0.03	
ハイブリッド社債考慮後*1	0.53	0.50	+0.03	

	A. 26.3期 3Q実績	B. 25.3期 3Q実績	A-B	備考
ROIC*2	4.4%	3.6%	+0.8%	
タイムラグ差損益を除く	3.9%	3.4%	+0.5%	
ROE	8.2%	5.7%	+2.5%	
タイムラグ差損益を除く	7.4%	5.5%	+1.9%	

*1 発行済ハイブリッド社債の資本性50%を調整

*2 ROIC = NOPAT ÷ 投下資本 (期首期末平均)
NOPAT = 経常利益 + 支払利息 - 受取利息 - 法人税等
投下資本 = 自己資本 + 有利子負債残高 (当社にリスクのないリース負債除く)

26.3期 第3四半期の対前年比較 - ③投資、キャッシュ・フロー等

億円	A. 26.3期 3Q実績	B. 25.3期 3Q実績	A-B	備考
投資額(A+B)	2,133	2,077	+56	
品質向上投資(A)	552	436	+116	
成長投資(B)	1,580	1,640	-59	
国内エネルギー	471	242	+229	
海外エネルギー	749	921	-172	
ライフ&ビジネス ソリューション	359	475	-116	
設備投資額(投資額の内数)*1	1,894	1,544	+349	
減価償却費(のれん償却費含む)	999	953	+45	

*1 設備投資額（投資額の内数）＝ 投資額 - 出資額(M&A、既存関係会社への追加出資等)

億円	A. 26.3期 3Q実績	B. 25.3期 3Q実績	A-B	備考
フリーキャッシュフロー*2	493	-702	+1,195	

*2 フリーキャッシュフロー ＝ 営業活動によるキャッシュ・フロー - 投資活動によるキャッシュ・フロー

26.3期 第3四半期の対前年比較 - ④件数、販売量等

	A. 26.3期 3Q末実績	B. 25.3期 3Q末実績	A-B	(A-B)/B	備考
お客さまアカウント数(千件)	10,822	10,584	+238	+2.3%	
ガス*1	5,489	5,387	+102	+1.9%	
電力*2	2,488	2,386	+103	+4.3%	
その他	2,845	2,811	+34	+1.2%	

*1 ガス供給件数と持分法適用会社の供給件数の合計（ワンタッチ卸先の供給件数を除く）
*2 低圧電気供給件数および持分法適用会社の供給件数などの合計

	A. 26.3期 3Q実績	B. 25.3期 3Q実績	A-B	(A-B)/B	備考
国内ガス販売量(百万m^3)*3,4	4,637	4,652	-15	-0.3%	
家庭用	1,006	996	+10	+1.0%	
業務用等	3,631	3,656	-25	-0.7%	
ガス供給件数(千件)	5,144	5,095	+49	+1.0%	
国内電力販売量(百万kWh)*4	12,189	11,774	+415	+3.5%	
小売	5,553	5,261	+292	+5.6%	
卸等	6,635	6,513	+123	+1.9%	
低圧電気供給件数(千件)	1,935	1,888	+47	+2.5%	

	A. 26.3期 3Q実績	B. 25.3期 3Q実績	A-B	備考
平均気温(℃)	21.8	21.7	+0.1	

*3 45MJ/m^3
*4 ガス販売量及び電力販売量は、販売に係る収益を「収益認識に関する会計基準の適用指針」に基づき見積り計上している
ことから、決算月に実施した検針の日から決算日までに生じた使用量の見積りを反映させたものを記載しております

26.3期 第3四半期の対前年比較 - ⑤セグメント別

億円	A. 26.3期 3Q実績	B. 25.3期 3Q実績	A-B	(A-B)/B	備考
売上高	14,388	14,441	-53	-0.4%	
国内エネルギー	11,675	12,060	-385	-3.2%	原料費調整制度に基づくガス販売単価の下落 等
海外エネルギー	1,054	916	+138	+15.1%	
ライフ&ビジネス ソリューション	2,176	2,000	+175	+8.8%	
調整	-517	-537	+19	-	
経常利益	1,631	1,255	+376	+30.0%	
セグメント利益*1	1,594	1,187	+406	+34.3%	
国内エネルギー	631	380	+250	+65.8%	タイムラグ差損益 等
タイムラグ差損益を除く	444	326	+117	+36.1%	JLCと比較した当社長期契約LNGの競争力向上 等
内、電力	179	217	-37	-17.3%	市況影響(石炭価格等)による販売価格低下 等
海外エネルギー	712	550	+162	+29.5%	米国事業の好調 等
ライフ&ビジネス ソリューション	221	216	+5	+2.7%	都市開発事業の増益 等
調整	28	40	-12	-29.8%	
営業外(持分法投資損益を除く)	37	67	-30	-45.2%	
タイムラグ差損益*2	187	54	+132	+244.5%	
(個別)ガス事業	142	46	+96	+206.1%	
(個別)電力事業	44	7	+36	+480.4%	
ヘッジ会計適用外のデリバティブ時価評価影響*3	-3	2	-5	-	

*1 セグメント利益＝営業利益+持分法投資損益　*2 国内エネルギーの内数　*3 海外エネルギーの内数

Ⅱ. 数値増減

Ⅱ-2. 26.3期 見通しの対前回見通し比較

Copyright © OSAKA GAS CO., LTD. All Rights Reserved.

26.3期 見通しの対前回見通し比較- ①売上高・利益等

億円	A. 26.3期 2/2見通し	B. 26.3期 10/30見通し	A-B	(A-B)/B	備考
売上高	20,500	20,500	±0	±0%	
営業利益	1,600	1,600	±0	±0%	
経常利益	1,860	1,860	±0	±0%	
タイムラグ差損益を除く	1,690	1,690	±0	±0%	
タイムラグ差損益*1	170	170	±0	±0%	
(個別)ガス事業	140	140	±0	±0%	
(個別)電力事業	30	30	±0	±0%	
親会社株主に帰属する当期純利益	1,420	1,420	±0	±0%	
タイムラグ差損益を除く	1,295	1,295	±0	±0%	
一株当たり当期純利益(円)*2	363.17	361.90	+1.27	+0.4%	
EBITDA*3	3,210	3,210	±0	±0%	
NOPAT*4	1,512	1,512	±0	±0%	

*1 国内エネルギーの内数
*2 26.3期今回見通しの「一株当たり当期純利益」の計算には、2026年1月1日以降の自己株式取得分の影響は含んでおりません。
*3 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 (のれん償却費含む) + 持分法投資損益
*4 NOPAT = 経常利益 + 支払利息 - 受取利息 - 法人税等

	A. 26.3期 2/2見通し	B. 26.3期 10/30見通し	A-B	備考
原油価格(JCC)($/bbl)	71.0	71.8	-0.8	4Q前提：65$/bbl
為替(円/$)	150.3	148.0	+2.3	4Q前提：155円/$

26.3期 見通しの対前回見通し比較- ②資産等

億円	A. 26.3期 2/2見通し	B. 26.3期 10/30見通し	A-B	備考
総資産	32,560	32,310	+250	円安による海外資産額の増加
自己資本	17,025	16,775	+250	円安による為替換算調整勘定の増加
一株当たり純資産(円)*1	4,399.7	4,275.5	+124.2	
株主資本	13,320	13,320	±0	
有利子負債	10,220	10,220	±0	
自己資本比率	52.3%	51.9%	+0.4%	
ハイブリッド社債考慮後*2	55.0%	54.6%	+0.3%	
D/E比率	0.60	0.61	-0.01	
ハイブリッド社債考慮後*2	0.52	0.53	-0.01	
DOE*1,3	3.6%	3.6%	-0.0%	

*1 26.3期今回見通しの「一株当たり純資産」「DOE」の計算には、2026年1月1日以降の自己株式取得分の影響は含んでおりません。

*2 発行済ハイブリッド社債の資本性50%を調整　　*3 DOE = 一株当たり年間配当金(DPS) ÷ 一株当たり株主資本（期首期末平均）

	A. 26.3期 2/2見通し	B. 26.3期 10/30見通し	A-B	備考
ROIC*4	5.7%	5.7%	-0.0%	
タイムラグ差損益を除く	5.2%	5.2%	-0.0%	
国内エネルギー	4.1%	4.1%	±0.0%	
海外エネルギー	8.5%	8.6%	-0.1%	円安による海外資産額の増加
ライフ&ビジネス ソリューション	5.6%	5.6%	±0.0%	
ROE	8.4%	8.4%	-0.1%	
タイムラグ差損益を除く	7.6%	7.7%	-0.1%	

*4 ROIC = NOPAT ÷ 投下資本 (期首期末平均)　NOPAT = 経常利益 + 支払利息 - 受取利息 - 法人税等
投下資本 = 自己資本 + 有利子負債残高 (当社にリスクのないリース負債除く)

26.3期 見通しの対前回見通し比較- ③投資、キャッシュ・フロー等

億円	A. 26.3期 2/2見通し	B. 26.3期 10/30見通し	A-B	備考
投資額(A+B)	2,990	2,990	±0	
品質向上投資(A)	900	900	±0	
成長投資(B)	2,090	2,090	±0	
国内エネルギー	640	640	±0	
海外エネルギー	950	950	±0	
ライフ&ビジネス ソリューション	500	500	±0	
設備投資額(投資額の内数)*1	2,710	2,710	±0	
減価償却費(のれん償却費含む)	1,370	1,370	±0	

*1 設備投資額（投資額の内数） = 投資額 - 出資額(M&A、既存関係会社への追加出資等)

億円	A. 26.3期 2/2見通し	B. 26.3期 10/30見通し	A-B	備考
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,140	3,140	±0	
投資活動によるキャッシュ・フロー*2	2,540	2,540	±0	
フリーキャッシュフロー*3	600	600	±0	

*2 見通しは投資額を記載

*3 フリーキャッシュフロー = 営業活動によるキャッシュ・フロー - 投資活動によるキャッシュ・フロー

26.3期 見通しの対前回見通し比較- ④件数、販売量等

	A. 26.3期 2/2見通し	B. 26.3期 10/30見通し	A-B	(A-B)/B	備考
お客さまアカウント数(千件)	11,007	11,007	±0	±0%	

	A. 26.3期 2/2見通し	B. 26.3期 10/30見通し	A-B	(A-B)/B	備考
国内ガス販売量(百万m^3)*1,2	6,598	6,598	±0	±0%	
家庭用	1,669	1,669	±0	±0%	
業務用等	4,929	4,929	±0	±0%	
国内電力販売量(百万kWh)*2	16,602	16,602	±0	±0%	

	A. 26.3期 2/2見通し	B. 26.3期 10/30見通し	A-B	備考
平均気温(℃)	17.6	17.6	±0.0	

*1 45MJ/m^3

*2 ガス販売量及び電力販売量は、販売に係る収益を「収益認識に関する会計基準の適用指針」に基づき見積り計上していることから、決算月に実施した検針の日から決算日までに生じた使用量の見積りを反映させたものを記載しております

26.3期 見通しの対前回見通し比較- ⑤セグメント別

億円	A. 26.3期 2/2見通し	B. 26.3期 10/30見通し	A-B	(A-B)/B	備考
売上高	20,500	20,500	±0	±0%	
国内エネルギー	16,500	16,500	±0	±0%	
海外エネルギー	1,400	1,400	±0	±0%	
ライフ&ビジネス ソリューション	3,200	3,200	±0	±0%	
調整	-600	-600	±0	-	
経常利益	1,860	1,860	±0	±0%	
セグメント利益*1	1,840	1,840	±0	±0%	
国内エネルギー	755	755	±0	±0%	
タイムラグ差損益を除く	585	585	±0	±0%	
内、電力	230	200	+30	+15.0%	電力市場取引による増益 等
海外エネルギー	740	740	±0	±0%	
ライフ&ビジネス ソリューション	340	340	±0	±0%	
調整	5	5	±0	±0%	
営業外(持分法投資損益を除く)	20	20	±0	±0%	
タイムラグ差損益*2	170	170	±0	±0%	
(個別)ガス事業	140	140	±0	±0%	
(個別)電力事業	30	30	±0	±0%	

*1 セグメント利益＝営業利益＋持分法投資損益

*2 国内エネルギーの内数

Ⅱ. 数値増減

Ⅱ-3. 26.3期 見通しの対前年比較

Copyright © OSAKA GAS CO., LTD. All Rights Reserved.

26.3期 見通しの対前年比較- ①売上高・利益等

億円	A. 26.3期 2/2見通し	B. 25.3期 実績	A-B	(A-B)/B	備考
売上高	20,500	20,690	-190	-0.9%	原料費調整制度に基づくガス販売単価の下落 等
営業利益	1,600	1,607	-7	-0.5%	
経常利益	1,860	1,896	-36	-1.9%	電力の固定費増 等
タイムラグ差損益を除く	1,690	1,853	-163	-8.8%	電力の固定費増 等
タイムラグ差損益*1	170	42	+127	+297.3%	
(個別)ガス事業	140	29	+110	+366.7%	
(個別)電力事業	30	12	+17	+134.5%	
親会社株主に帰属する当期純利益	1,420	1,344	+75	+5.6%	タイムラグ差損益 等 ※
タイムラグ差損益を除く	1,295	1,313	-18	-1.4%	電力の固定費増 等
一株当たり当期純利益(円)*2	363.17	333.31	+29.86	+9.0%	
EBITDA*3	3,210	3,089	+120	+3.9%	
NOPAT*4	1,512	1,387	+124	+9.0%	

*1 国内エネルギーの内数
*2 26.3期今回見通しの「一株当たり当期純利益」の計算には、2026年1月1日以降の自己株式取得分の影響は含んでおりません。
*3 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 (のれん償却費含む) + 持分法投資損益
*4 NOPAT = 経常利益 +支払利息 - 受取利息 - 法人税等
※経常利益は減益の一方で、当期純利益は増益の見通しとなるのは、主に米国再エネ事業における利益の計上先変更による。

	A. 26.3期 2/2見通し	B. 25.3期 実績	A-B	備考
原油価格(JCC)($/bbl)	71.0	82.4	-11.4	4Q前提：65$/bbl
為替(円/$)	150.3	152.6	-2.3	4Q前提：155円/$

※2026年10月29日に数値を一部訂正。訂正箇所は下線を付して表示。

26.3期 見通しの対前年比較- ②資産等

億円	A. 26.3期 2/2見通し	B. 25.3期 期末実績	A-B	備考
総資産	32,560	32,005	+555	
自己資本	17,025	16,887	+137	
一株当たり純資産(円)*1	4,399.7	4,254.1	+145.6	
株主資本	13,320	13,020	+299	
有利子負債	10,220	9,724	+495	
自己資本比率	52.3%	52.8%	-0.5%	
ハイブリッド社債考慮後*2	55.0%	55.5%	-0.5%	
D/E比率	0.60	0.58	+0.02	
ハイブリッド社債考慮後*2	0.52	0.50	+0.02	
DOE*1,3	3.6%	3.0%	+0.6%	株主還元方針(DOE水準)の変更

	A. 26.3期 2/2見通し	B. 25.3期 実績	A-B	備考
ROIC*4	5.7%	5.4%	+0.3%	
タイムラグ差損益を除く	5.2%	5.3%	-0.1%	
国内エネルギー	4.1%	4.2%	-0.2%	
海外エネルギー	8.5%	7.5%	+1.0%	
ライフ&ビジネス ソリューション	5.6%	5.3%	+0.2%	
ROE	8.4%	8.2%	+0.1%	
タイムラグ差損益を除く	7.6%	8.0%	-0.4%	

*1 26.3期今回見通しの「一株当たり純資産、「DOE」の計算には、2026年1月1日以降の自己株式取得分の影響は含んでおりません。
*2 発行済ハイブリッド社債の資本性50%を調整
*3 DOE = 一株当たり年間配当金(DPS) ÷ 一株当たり株主資本（期首期末平均）
*4 ROIC = NOPAT ÷ 投下資本 (期首期末平均) NOPAT = 経常利益 + 支払利息 - 受取利息 - 法人税等
投下資本 = 自己資本 + 有利子負債残高 (当社にリスクのないリース負債除く)

26.3期 見通しの対前年比較- ③投資、キャッシュ・フロー等

億円	A. 26.3期 2/2見通し	B. 25.3期 実績	A-B	備考
投資額(A+B)	2,990	2,831	+158	
品質向上投資(A)	900	737	+162	
成長投資(B)	2,090	2,094	-4	
国内エネルギー	640	341	+298	
海外エネルギー	950	1,129	-179	
ライフ&ビジネス ソリューション	500	623	-123	
設備投資額(投資額の内数)*1	2,710	2,217	+492	
減価償却費(のれん償却費含む)	1,370	1,275	+94	

*1 設備投資額（投資額の内数） = 投資額 - 出資額(M&A、既存関係会社への追加出資等)

億円	A. 26.3期 2/2見通し	B. 25.3期 実績	A-B	備考
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,140	2,836	+303	
投資活動によるキャッシュ・フロー*2	2,540	2,556	-16	
フリーキャッシュフロー*3	600	280	+319	

*2 見通しは投資額を記載

*3 フリーキャッシュフロー = 営業活動によるキャッシュ・フロー – 投資活動によるキャッシュ・フロー

26.3期 見通しの対前年比較- ④件数、販売量等

	A. 26.3期 2/2見通し	B. 25.3期 期末実績	A-B	(A-B)/B	備考
お客さまアカウント数(千件)	11,007	10,711	+297	+2.8%	

	A. 26.3期 2/2見通し	B. 25.3期 実績	A-B	(A-B)/B	備考
国内ガス販売量(百万m^3)*1,2	6,598	6,650	-52	-0.8%	
家庭用	1,669	1,659	+11	+0.7%	
業務用等	4,929	4,992	-63	-1.3%	
国内電力販売量(百万kWh)*2	16,602	16,982	-380	-2.2%	

	A. 26.3期 2/2見通し	B. 25.3期 実績	A-B	備考
平均気温(℃)	17.6	18.2	-0.6	

*1 45MJ/m^3

*2 ガス販売量及び電力販売量は、販売に係る収益を「収益認識に関する会計基準の適用指針」に基づき見積り計上していることから、決算月に実施した検針の日から決算日までに生じた使用量の見積りを反映させたものを記載しております

26.3期 見通しの対前年比較- ⑤セグメント別

億円	A. 26.3期 2/2見通し	B. 25.3期 実績	A-B	(A-B)/B	備考
売上高	20,500	20,690	-190	-0.9%	
国内エネルギー	16,500	17,379	-879	-5.1%	原料費調整制度に基づくガス販売単価の下落 等
海外エネルギー	1,400	1,281	+118	+9.2%	
ライフ&ビジネス ソリューション	3,200	2,824	+375	+13.3%	
調整	-600	-795	+195	-	

経常利益	1,860	1,896	-36	-1.9%	
セグメント利益*1	1,840	1,813	+26	+1.4%	
国内エネルギー	755	775	-20	-2.6%	
タイムラグ差損益を除く	585	732	-147	-20.2%	
内、電力	230	398	-168	-42.3%	固定費増 等
海外エネルギー	740	719	+20	+2.9%	
ライフ&ビジネス ソリューション	340	287	+52	+18.2%	都市開発事業の増益 等
調整	5	31	-26	-84.0%	
営業外(持分法投資損益を除く)	20	82	-62	-75.8%	

タイムラグ差損益*2	170	42	+127	+297.3%	
(個別)ガス事業	140	29	+110	+366.7%	
(個別)電力事業	30	12	+17	+134.5%	

*1 セグメント利益＝営業利益+持分法投資損益
*2 国内エネルギーの内数

Ⅲ. 補足情報

Copyright © OSAKA GAS CO., LTD. All Rights Reserved.

通期見通しに対する主な収支変動要因

気温・水温影響

変動幅		**家庭用ガス販売量**への影響
気水温	+1℃	-7%

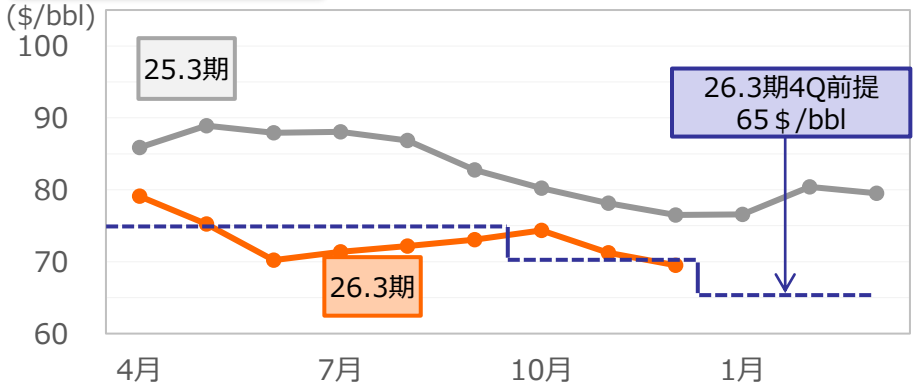
原油・為替影響

- 表は26年1月1日以降の指標が変動した場合の、今年度の収支影響を表示。

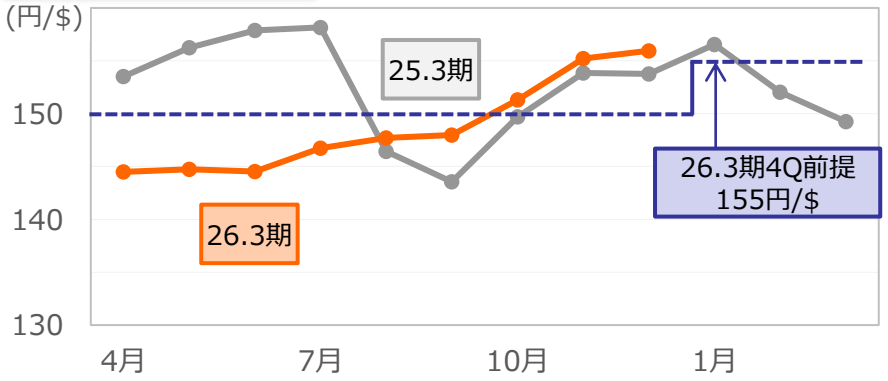
変動幅		セグメント	収支影響	**経常利益**への影響額
原油(JCC)	+1$/bbl	海外エネルギー	影響なし	-0.2億円
		国内エネルギー	減益	
為替レート	+1円/$(円安)	海外エネルギー	影響なし	-10.0億円
		国内エネルギー	減益	

原油・為替の推移とタイムラグの状況

原油(JCC)



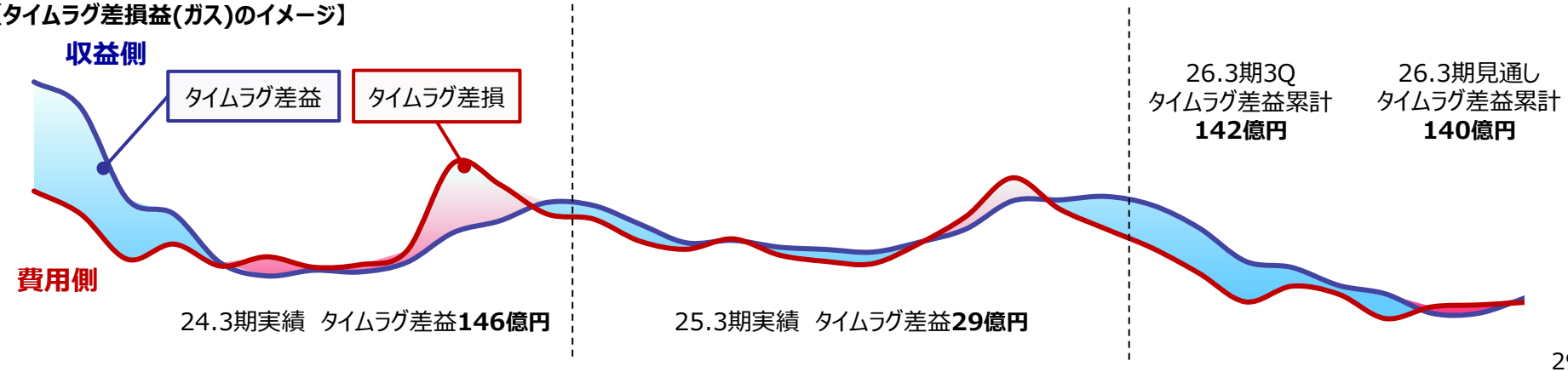
為替レート



タイムラグ差損益(四半期毎の推移)

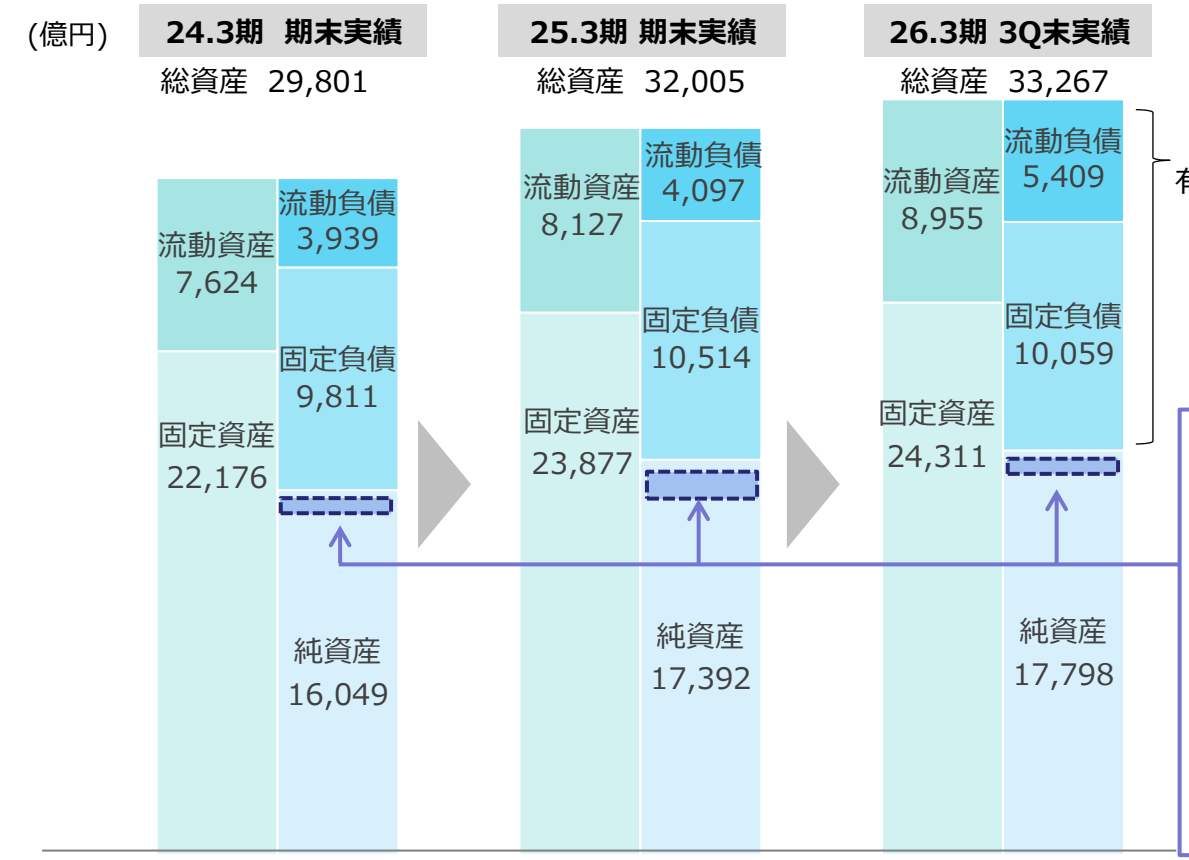
(億円)	24.3期実績					25.3期実績					26.3期				
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	(3Q累計)	通期見通し
タイムラグ差損益	323	58	-14	-81	285	42	5	6	-11	42	140	50	-4	187	170
ガス	231	11	-17	-79	146	31	15	0	-16	29	107	43	-8	142	140
電力	92	46	3	-2	139	10	-10	6	5	12	32	7	3	44	30

【タイムラグ差損益(ガス)のイメージ】



B/Sにおける為替換算調整勘定の変動について

✓ 為替換算調整勘定は＋10円(円安)に対し、+400～500億円変動する



ご参考 **為替換算調整勘定の推移**

	24.3期 期末	25.3期 期末	26.3期 3Q末*2
為替換算調整勘定(億円)	1,405	2,166	1,702 (▲464)
為替レート*3	141.8 円/$	158.2 円/$	148.9 円/$ (▲9.3)

	24.3期 期末	25.3期 期末	26.3期 3Q末
自己資本比率*1	55.9% (52.9%)	55.5% (52.8%)	54.7% (52.1%)
D/E比率*1	0.51 (0.59)	0.50 (0.58)	0.53 (0.61)

*1 発行済ハイブリッド社債1,750億円の資本性50%を調整。括弧内の数値は調整前
*2 括弧内の数値は、25.3期 期末からの増減金額
*3 海外子会社が12月決算であるため、期末は12月末、3Q末は9月末の為替レートで換算

IR参考資料

資料(公表年月)	資料リンク
IR情報ホームページ	Daigasグループ＞IR情報＞ (https://www.daigasgroup.com/ir/)
■ファクトブック2025 (2025/10)	Daigasグループ＞IR情報＞ファクトブック
■統合報告書2025 (2025/7)	Daigasグループ＞IR情報＞統合報告書
■2025年度経営計画 (2025/3)	Daigasグループ＞IR情報＞経営ビジョン・経営計画＞単年度経営計画
■エネルギー トランジション2050 (2025/2)	(資料) Daigasグループ＞IR情報＞経営ビジョン・経営計画＞カーボンニュートラルに向けた挑戦 (動画) 動画解説(ダイジェスト版)　動画解説(概要版)
■中期経営計画2026 (2024/3)	Daigasグループ＞IR情報＞経営ビジョン・経営計画＞中長期経営計画＞中期経営計画



Copyright © OSAKA GAS CO., LTD. All Rights Reserved.